

## 校長室から

第25号

## 本校の開校はいつなのか？ ～その8～

開校は明治四十一年が正当であることが記念式後の古老や有志の座談会で実証されたので、政井氏が沿革誌を修正しました。その沿革誌が本校の金庫にある2冊の沿革誌のうちの1冊で、A4版青と黒の表紙に『永久保存 沿革誌 西興部小学校』（以下『沿革誌』）と書かれています。早速、沿革大要を見てみましょう。書かれている文は『学校沿革並現勢誌』と全く同じで、転載したものであることが判ります。そして、確かに3カ所、明治四十二年の二が一に修正されています。

『学校沿革並現勢誌』の沿革大要は大正15年7月1日で終わっているので、『沿革誌』はそれ以降にあらためて作られたと考えられます。その証拠として、「北海道紋別郡西興部村役場」の罫紙を使用しています。

ここであらためて注目したいのは『学校沿革並現勢誌』では「紋別郡興部村」の罫紙を使用していることと、沿革に「當教育所ノ開校式ヲ挙行、監視官雄武外三村戸長代理福山秀氏外部落有志二十五名参列」とあることです。

本村の歴史を紐解き、本校の歴史と重ね合わせてみると、

## 『沿革誌』 沿革大要

- 1900（明治33）年7月1日、紋別村から雄武、幌内、沢木、興部の四か村が分割独立して、雄武村に、雄武外三か村戸長役場が置かれる
- 1908（明治41）年1月25日、本校が、上興部原野六線に上興部第一教育所として開校
- 1909（明治42）年5月1日、雄武村より分離、当時紋別村管轄であった沙留村、瑠椽村を併合して、興部村に興部外二か村戸長役場が置かれる
- 1915（大正4）年4月1日、管内の戸長制度が廃止されて、二級町村制が施行され、興部村が誕生
- 1917（大正6）年4月1日、上興部第二尋常小学校と改称
- 1917（大正6）年6月1日、七重尋常小学校と改称
- 1917（大正6）年10月1日、上興部原野八線に校舎新築
- 1921（大正10）年10月5日、名寄線全線開通（函館線七飯駅があるため、駅名を七重とせず「オシヨロッコ・セトウシ」から瀬戸牛とする）
- 1923（大正12）年5月2日、瀬戸牛尋常小学校と改称（函館方面に七重小学校有り）
- 1925（大正14）年1月1日、興部村から分村して西興部村が誕生

## 「西興部村役場」の罫紙

本校の歴史を語る上で、本校が村より約17年早く生まれ、その間に3回名称が変わっていたことを欠かすわけにはいきません。そして、雄武外三か村、興部外二か村、興部村、西興部村と、本校の所属する地方公共団体も変わってきたのです。

